新潟県 教育月報 10月号
第681号
平成18年10月１日発行
編集人、発行人
新潟県教育委員会

中１ギャップ解消に向けた自校プラン作成のために

義 務 教 育 課

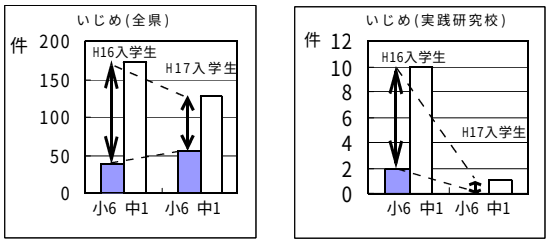
１　はじめに

中学校１年生でいじめや不登校が急増する、いわゆる中１ギャップに対して、その解消に向けた対応策を探るため、県教育委員会では、平成15～16年度の２か年にわたる調査研究の結果を踏まえ、昨年度から中１ギャップ解消実践研究事業を立ち上げました。６中学校を実践研究校に指定し、その中学校区内の小学校の協力も得て、「中１ギャップ解消プログラム」の作成に取り組んでいます。

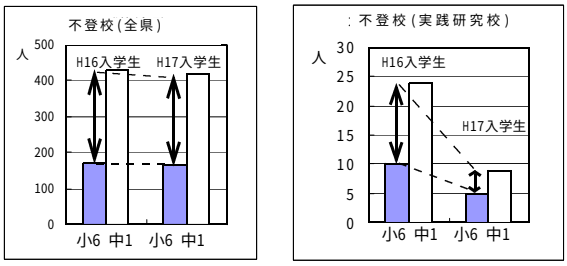
実践研究校では、中学校区に中１ギャップ解消検討会議を設置し、「小･中学校の緊密な連携体制の確立」、「人間関係づくりの能力(社会的スキル)の育成」、「思春期の繊細な内面へのきめ細かな対応」の３つの視点(以下、「３つの視点」という。)から、自校の教育活動や学校体制等を見直し、中１ギャップ解消のための自校プランを策定し、実践しています。

その結果グラフ１、２のように、実践研究校では、中１ギャップが大幅に抑制されました。

グラフ１「全県と実践研究校のいじめ発生件数推移の比較」



グラフ２「全県と実践研究校の不登校人数推移の比較」



グラフは、平成16年度及び平成17年度中学校入学生の、小学校６年時から中学校１年時までのいじめ発生件数と不登校人数の推移を、全県と実践研究校とで比較したものです。

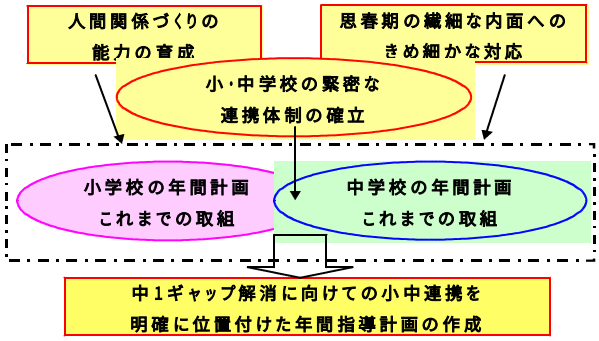
県教育委員会では、実践研究校における中１ギャップの抑制が、どのような取組によってもたらされたのかを分析･検討し、その結果を平成18年３月に「中１ギャップ解消に向けて(中１ギャップ解消プログラム試案)」(以下、「プログラム試案」という。)にまとめました。

そして本年度は、このプログラム試案に基づき、「中１ギャップ解消フォーラム」(６月、市町村教育委員会や代表小中学校長を対象)及び「中１ギャップ解消プログラム試案説明会」(８月、教育事務所ごとに、小･中学校の中１ギャップ解消の担当者を対象)を実施し、小･中学校が連携した中１ギャップ解消に向けた自校プランの作成を推進しています。

２　中１ギャップ解消に向けた自校プランの作成

(1) 作成に向けて

「中１ギャップ解消に向けた自校プランの作成」とは、各学校の年間の取組を「３つの視点」から見直し、小･中学校が連携して中１ギャップ解消に取り組めるような年間計画を作成することです。



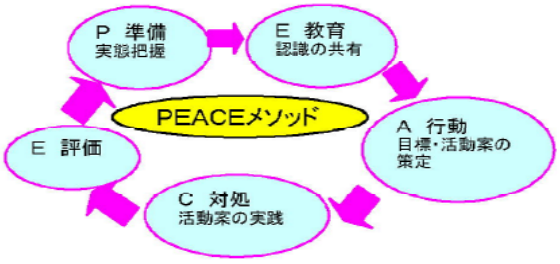
また中１ギャップ解消のためには、小学校段階の取組と中学校段階の取組、そしてその連携体制の確立を、年間指導計画レベルで見

直していく必要があります。その見直しには、最低でも１年から１年半の時間がかかりますが、見通しをもつことなしには、持続的な取組は不可能です。そこで、ピース･メソッドの考え方を取り入れることは非常に有効です。

(2) ピース･メソッドを基軸として

ピース･メソッドは、学校や学年を単位として生徒指導上の諸問題に取り組む際、個別の事象への対応を示す単なるハウ･ツーではなく、取組を成功させていくために必要な手順やその背景にある考えをまとめた１つの手法です。

自校プランの策定にあたっては、中１ギャップ解消のための具体的な取組を、下図及び右表ピース･メソッド全体の手順をイメージしながら構想していくことが重要です。



※ 「ピース・メソッド」の詳細については、新潟県教育委員会「いじめの起きない学校づくりのために－いじめ防止学習プログラム－前編」(平成12年３月)参照。

<中１ギャップ解消に向けたピース･メソッド>

P Preparation（準備）
中心スタッフによる中１ギャップ状況の分析、児童生徒の実態把握
- 中学校区の児童生徒の実態把握（社会的スキル定着状況、学級適応感、ストレス状況等）
- 自校の中１ギャップの状況の分析
  小･中学校間の連携体制の見直し(小学校と中学校の指導方法等のギャップの把握)

E Education（教育）
職員会議、研修会等の場における中１ギャップ解消に向けた話し合いの場の設定
- 中１ギャップの要因等についての研修
- 小･中学校間の指導方法等の情報交換会
- 自校区の中１ギャップの現状、児童生徒の実態についての理解

A Action（行動）
中１ギャップ解消プログラム自校プランの策定
- ３つの視点を明確に位置付けた年間指導計画の検討
- 個々の取組の具体的な活動計画案の作成

C Coping（対処）
活動計画案の実践
- ねらいを明確にした個々の取組の実践
- 個々の取組のねらいの達成状況の確認

E Evaluation（評価）
以下の観点による成果の評価
- 中学１年生でのいじめ･不登校の抑制
- 児童生徒のストレス状況、孤立感等の改善
- 社会的スキルの定着状況の向上

中１ギャップ解消に向けた自校プランの例

（小学校での取組）　　（中学校での取組）

（日常的な取組として）
◎ **内省ノート、生活アンケート、日頃の観察等による児童生徒の実態把握（個人ファイルの作成）**
○ 交換授業、出前授業等の小中連携による学習指導の工夫　→　小中合同での指導案検討や授業後の振り返りの実施
○ 学校行事等での交流活動、合同での奉仕活動等の実施

11月　社会的スキル等の実態調査実施

12月　○ 集計・分析→個人ファイルへ記入
※ スキル補強の振り返り活動
※ 出前授業、中学校説明会、１日体験入学等の小学６年生が中学校生活への見通し、安心感が持てるような取組

1月
2月　中学校への期待アンケート
○小中連携シートの作成
○出席状況の整理

3月　小中引き継ぎ（管理職、小中生徒指導主事、小６学年部、中新１学年部職員等を含む）
→　進学児童の現状把握、中学校での受け入れ体制の確認

4月　○ 小６学年部による適応事前指導等
（自信や意欲の醸成、保護者との連携を含む）
※ お世話する活動等による人間関係づくりの実践
○ 中１学年会での情報交換会及び中学校適応指導計画の立案（管理職、生徒指導主事、不登校対応等を含む）
職員研修等で全職員で現状認識、組織や対応等を共有化
↓　＜生徒指導部会、学年会等＞
職員会議等での目標、活動案の検討

中学校との情報交換

5月
6月　※ 運動会に向けた人間関係づくり
○「学校評価」に「中１ギャップ解消」を位置付ける。
※ 生活アンケート、内省ノート、観察等による生徒の実態把握と生徒の状況に応じた対応

7月
8月　小中合同の連絡協議会　→　小学校個人ファイルへの質問、中学での様子の報告、心配な生徒や事例に対する合同での協議

9～
11月　社会的スキルの育成、発達障害、小中連携学習指導等の合同研修、１学期の生徒の様子に基づく合同事例検討会等
小中で中１ギャップに関する中間の学校評価についての情報交換
※ 地域における異年齢交流活動
※ 小中連携での授業や行事の実施、小中の交流活動等